



produced by **MEDIPLAT**

2024年8月

衛生講話資料

麻疹と風疹

予防接種が大事なウイルス感染症

株式会社Mediplatの許可無く
対外的に参照・配布することを禁じます

Copyright(C) ALL RIGHTS RESERVED, Mediplat, Inc. CONFIDENTIAL

1. 感染症とは？

2. 麻疹と風疹

1. 麻疹（はしか）
2. 風疹（三日はしか）

3. 対策

1. ワクチンについて
2. 成人のワクチン接種
3. 企業における風疹対策



病原体が体内に侵入して増殖し、何らかの症状が出ること

■ 感染経路

人からうつる

- ・ 接触感染 (ノロウイルスなど)

病原体に直接接触して感染

- ・ 飛沫感染 (コロナウイルスなど)

咳やくしゃみなどで飛んでいる

飛沫を吸い込んで感染

- ・ 空気感染 (麻疹・結核・水痘など)

空気中に浮いている

病原体を含む粒子を吸い込んで感染

人以外からうつる

- ・ 媒介物感染 (食中毒・マラリア・狂犬病など)

水・食品・虫・動物などから感染

■ 病原体

- ・ 細菌 (大腸菌・黄色ブドウ球菌など)

単体で増えることができる

抗生剤が効く

- ・ ウイルス (コロナ・インフルエンザなど)

単体では増殖できないので

細胞内に侵入して増殖

- ・ 真菌/カビ (水虫・カンジダなど)

単体で増えることができる

抗真菌剤が効く

- ・ 寄生虫 (マラリア・アニサキスなど)

宿主体内に寄生して増えていく

現代の人間では稀



今回は「ウイルス感染症」を扱います

麻疹（はしか）とは

感染力が非常に強く、重症化する感染症

昔は「命定め」と呼ばれた

- ・麻疹ウイルスによる急性の全身感染症
- ・空気感染する（飛沫・接触感染も）

手洗い・マスクで防ぎきれない

- ・感染力は極めて強く、抗体を持たない人が感染するとほぼ100%発症
→予防接種が最大の予防法！

■ 発生状況

- ・2015年にWHOから日本が「麻疹の排除状態である」と認定
- ・最近では海外旅行などの帰国者の感染がメイン
- ・帰国者経由で国内の流行もみられる

予防接種の効果！

■ 基本的な対策

- ・海外渡航前にはワクチン接種歴が2回以上あるか確認
- ・接触情報に心当たりがあったらすぐに病院に電話

無症状でも出歩かないこと

麻疹（はしか）の症状



実はこの時期の感染力が最も強い
1人が12~14人にうつす
(インフルは2~3人)

全体の30%に肺炎、脳炎、中耳炎、肝炎、心筋炎などの合併症が出る。先進国でも1000人に1人は亡くなる

発症した場合、重症化しても治療法はない

(症状を抑える対症療法で耐えるしかない)

■ 亜急性硬化性脳炎(SSPE)とは

- ・ 10万人に1人と稀だが、麻疹の感染数年後に発症する難病
- ・ 徐々に知的障害やけいれんなどが出現し、寝たきりに
- ・ 治療法は確立されておらず、予後が非常に悪い
- ・ 幼少期に感染→学童期に発症というパターンが多く、感染予防が重要

風疹（三日はしか）とは

妊婦がかかると胎児に影響する感染症

20～50%が
無症状！

- ・ 風疹ウイルスによる急性の全身感染症
- ・ 飛沫・接触感染する（空気感染しない）
- ・ 妊娠20週頃までに感染すると流産や先天性風疹症候群の子どもが生まれてくる可能性がある

手洗い・マスクで
防ぎきれない



■ 発生状況

- ・ 無症状が多いため、完全に把握することは難しい
- ・ 一旦抑制されていたが、海外帰国者経由での感染が増加
- ・ 国は抗体保有率の低い世代の男性の風疹対策に力を入れている

1979(昭54)年
まで生まれ

■ 基本的な対策

妊娠を予定or希望している本人と同居者
→抗体検査やワクチン接種の検討

「2回のワクチン接種」が確実にできれば
人混みや風邪の人は避けて行動

風疹（三日はしか）の症状



発症した場合、症状を抑えて対応

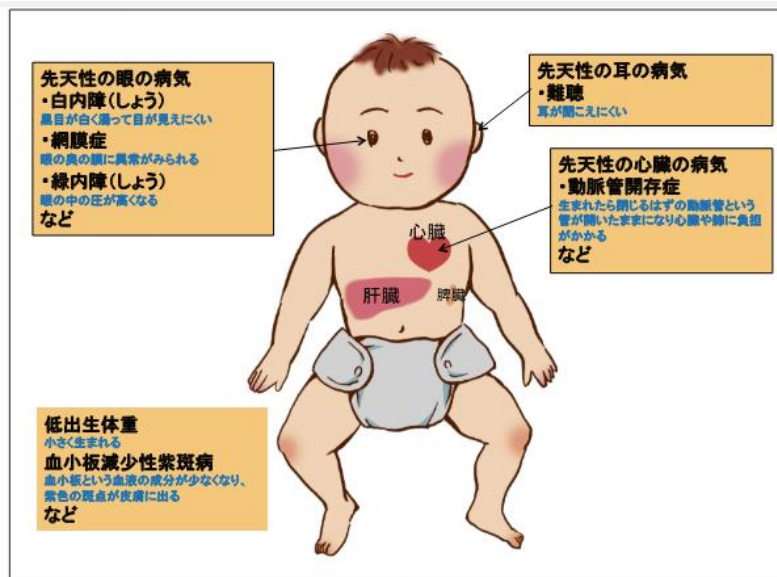
(基本的に風邪程度だが、まれに重症化することがある)

■ 先天性風疹症候群(CRS)とは

- ・ 妊娠20週頃までの女性が風疹に感染
→ 胎児に先天性の疾患が生じる
(妊娠1ヶ月で50%以上、2ヶ月で35%など)
- ・ 流産につながることもある



妊婦には症状がなくても(不顕性感染)、胎児が先天性風疹症候群を起こすことも
→ 妊婦の感染予防が非常に重要!



国立感染症研究所、「職場における風しん対策ガイドライン」より引用

麻疹・風疹に対するほぼ唯一の予防手段

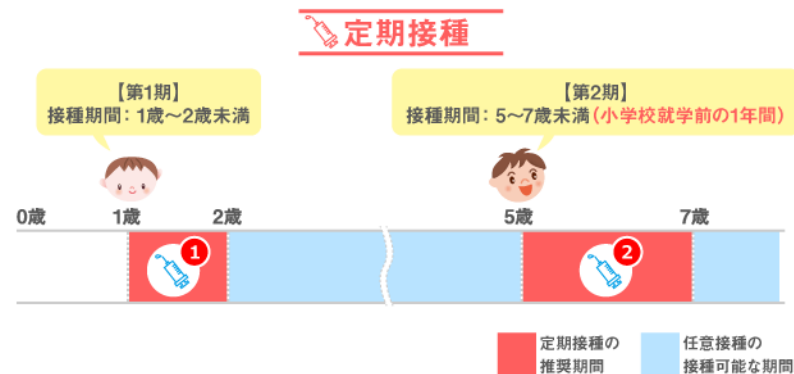
- ・ MRワクチンとして麻疹+風疹同時接種が基本
- ・ MRワクチン1本の接種で麻疹+風疹双方の抗体を獲得できる
- ・ どちらの接種歴が足りない場合でも、MRとしてまとめて接種可能

■ ワクチンについて

- ・ ウイルスを弱毒化させた「生ワクチン」→妊婦は接種不可
- ・ 接種後1週間くらいで熱が出ることがある(副反応)

■ (参考)小児の定期接種

- ・ 麻疹・風疹ともに小児の定期接種対象
→対象期間内なら公費で無料接種
- ・ 既に感染していても接種可能



ワクチン.net. 「MR（麻しん風しん混合）ワクチン」より抜粋

■ 麻疹

- ・「自分の感染防止」のために接種
- ・生涯で2回のワクチン接種が必要
- ・年代と病気にかかったことがあるかどうかで、ワクチンの必要回数が異なる

生まれ	予防接種	対策
～1972年9月30日	未接種の可能性	感染歴のある人以外 2回接種
1972年10月1日～ 1990年4月1日	1回 (追加接種措置対象外)	1回のみの場合 追加接種
1990年4月2日～ 2000年4月1日	1回 (追加接種措置対象)	1回のみの場合 追加接種
2000年4月2日～	2回	2回未完了なら 不足分を接種

接種歴・罹患歴が不明な場合は**2回の接種を推奨**
 (予防接種歴は母子健康手帳に記載がある)

ワクチン接種が 唯一の予防法！



追加接種措置とは

2008（平成20）年4月1日から5年間の期間限定で実施された措置のこと

麻疹風疹混合ワクチンの定期接種対象者が第3期(中学1年生相当)、第4期(高校3年生相当)にも拡大され、2回目のワクチンが接種可能であった

成人のワクチン接種(風疹)

妊婦に接する場合は要確認！

■ 風疹

- ・ 生涯で2回のワクチン接種が必要
- ・ 年代および性別によってワクチンの不足回数が異なる
- ・ 抗体検査で接種要否を判断できる！
- ・ 妊娠中は接種できないので、妊娠前に検査・接種を

特に30~50代男性は
不足している可能性
が高い

生まれ	予防接種	対策
~1962年4月1日	未接種の可能性	感染歴のある人以外 2回接種
1962年4月2日~1979年4月1日	女性のみ1回集団接種が施行	男性は未接種者が ほとんどのため、接種を
1979年4月2日~1987年10月1日	男女とも中学生に1回のみ定期接種対象 (但し個別接種のため接種率は低い)	未接種の場合は 不足分の追加接種
1987年10月2日~1990年4月1日	男女とも1-7歳半に1回のみ定期接種対象	
1990年4月2日~2000年4月1日	追加接種措置対象者 (ただ、追加接種率は低かった)	接種歴・罹患歴が不明な 場合は2回の接種を推奨
2000年4月2日以降	定期接種として2回接種対象者	

こどもとおとなのワクチンサイト、「ワクチンと病気について」より参考

■ なぜ企業で風疹対策が必要なのか

1962年4月2日～1979年4月1日生まれの男性は抗体がない可能性が高い

→ 「職場」が最多の感染経路であった年もある

従業員が1人でも感染したら

- ・ 突然のお休み、検査対応、保健所の疫学調査への対応
- ・ 社内、取引先での感染拡大防止策の検討
- ・ 患者周囲の妊婦の有無を確認、
妊婦の感染リスクの確認、感染予防策の検討

この世代の男性には
抗体検査と予防接種が
無料で受けられる
クーポン券が自治体から届く
(※2024年度末までの予定)

■ 企業での取り組み事例

職場の定期健診や人間ドックと一緒に、抗体検査を気軽に受けられる

- ① 健診機関の風疹抗体検査への対応可否を確認
- ② 管理職向けの案内や各拠点の定期健診担当者への説明の実施
- ③ 受診対象者に対して全社通達の発信やクーポン券の対象者に案内

風疹から従業員とお客様を守りましょう